



しらたかマルチワーク事業協同組合
事務局長 **菅原 ひろむ** さん

「こんなところに人は来るのか」 地域に根付くマイナス意識。 Uターンで得た知識と視点で 地域に意識革命を起こしたい。

「地域の方から『こんなところに人は来るのか』と言う声を聞くことがあるんです。地元の人からすると『こんなところ』と思うのかもしれませんが、外から見た白鷹町は魅力的に見えるのです。『当たり前』から『当たり前じゃない』、『こんな町』から『素敵な町』。そういった意識改革がこの町には必要で、その火付け役として、たかマルが活動していかなければならないのです」と話すのは、白鷹町出身でUターン後に地域おこし協力隊として現在も活動、そして、たかマルの事務局長を務める菅原大夢さん（鮎貝）です。



首都圏の若者たちにこの町の魅力を熱弁

一度離れて気づいた この町の魅力と可能性

菅原さんは、生まれも育ちも白鷹町。県内の大学を卒業した後、都内のメディア制作会社へ就職しました。都内で生活中に突如襲ったコロナ禍。その時に「自分の人生、このままでいいのだろうか」と考える時期があり、白鷹町にUターンすることを決意しました。実際に町へ戻ってみると、今まで感じたことのない感覚が襲ったとのこと。

「見慣れていたはずの風景にものすごく感動したんです。食や文化、町の人の温かさなど、この町にはこんなに魅力が溢れていたのかと気づかされました」と当時を振り返る菅原さん。白鷹町を一度離れ、再び戻ってきたことで、町の見え方が大きく変わった。その経験を町の発展に生かしたいと、たかマルの事務局長を引き受けた菅原さん。たかマルを軌道に乗せるためには数々の困難がありました。「地元の人が口にする『こんなところ』と称される町の『当たり前』には、特別な魅力があることを確信しています。その魅力を町として全面に打ち出すには、まずは地域の意識改革が必要で、その役割をたかマルが担っていきます」と語ります。

マルチワーカーの参画により 地域の人が気づきを得る

「目指すところは、マルチワーカーが地域に参画することで、外からの視点で地域の中に流入し、住民が気づきを得ること。その架け橋をたかマルが担っていくことです」と語る菅原さん。「地域の中には、『この町をもっと盛り上げたい!』という人が結構います。そうした人々とワーカーを繋ぐことで、町に新たな風が吹くと確信しているの、人と人が結びつく仕掛けづくりに力を入れています。地域のマイナス意識が強いのは、『自信』がないから。自信のない地域の人たちのために、意識革命を起こし、胸を張ってこの町を誇れる人を増やしていきたいです」と意気込みます。



「今のあなたの“やってみよう”を
私たちは応援します」と語る菅原さん

マルチワークの働き方や働き先など、詳しく知りたい方は、たかマルのホームページをご覧ください。



「自分にあった仕事ってなんだろう」 多様な働き方を経験して、 「生き方」を考える。 そんな機会をつくっていききたい。



しらたかマルチワーク事業協同組合
理事 つちや 土屋 あけみ 明美 さん

未経験でも安心して働ける環境を築けるかが鍵となる

土屋さんは、しらたかマルチワーク事業協同組合（以下、たかマル）の役割について、「ワーカーさんが持つ興味や関心に寄り添い、未経験でも安心して仕事ができる環境を整備しなければならぬ」と自身の経験から話します。

土屋さんは、もともとトマトが大の苦手だったとのこと。ある時、近所のトマト農家からケースいっぱいのトマトをいただき、困惑しながらも食べないとししに出会いました。そのことがきっかけとなり、トマト栽培に興味を持ちはじめ、現在は個人農家として活動しています。

当時を振り返り、「右も左も分からないまま農業の世界に飛び込み、最初は不安の毎日を送っていました。そんな状況を支えてくれたのが、トマトをおすそ分けしてくれた農家さんであり、地域の方でした。何かを始めるときは、大きな不安が付き



味のバランスが抜群の「やまのえくぼトマト」

ものです。興味を持ち、何かを始めようとする人がチャレンジしやすい環境を整備することが、たかマルに求められる役割になります」と語ります。

「自分に合う仕事は何だろう」 自分探しのためのマルチワーク

「自分に合う仕事は何か」「どんな仕事が楽しいと感じるか」まだ自分スタイルの働き方が見つからない方にこそ、マルチワークを活用して欲しいと語る土屋さん。

「多種多様な仕事にチャレンジできることもマルチワークの

魅力のひとつです。多様な仕事を通じて、たくさんの人と出会って、自分と向き合う時間をつくることこそ、『自分スタイルの生き方』を見つける行動だと思えます。たかマルでは、ワーカーさんを正社員として組合と雇用契約を結ぶので、安定した給与を得ながら、さまざまな仕事にチャレンジできます。『なりたい自分』を見つけるためのサポートを提供すべく、行政と地域、そしてワーカーさんの力を必要とする町内の事業所さんが一丸となって、マルチワークの環境整備に努めていきたいです」と期待に胸を膨らませます。



トマト栽培だけでなく、トマトを活用したさまざまな商品開発も手がける土屋さん